

瓊浦高等学校 学校诵信 第 96 号

今和2年8月28日発行 電話 095-826-1261

「 原石を磨く 」

指導監 荒木 典子

2学期が始まり、生徒たちの元気な姿が教室に戻ってきました。始業式は新型コロナウイル ス感染予防のため、3密を避け、各学年が別会場に集まり、インターネットにより校長訓示を 聞く形となりました。その中で、校長先生より今年度の体育祭は「3年生によるブロック別演 技発表会」という形で、規模を縮小して実施すると発表がありました。ご家族の観覧も今年 はできません。高総体、インターハイ、夏の甲子園と多くの大会や学校行事が中止や縮小を 余儀なくされ、3年生の気持ちを考えると切なく、辛い思いで一杯になります。それでも、気 持ちを萎えさせることなく、日常の生活を淡々と送っている生徒たちはさすがだと思います。

さて、コロナ禍において、私たちの生活は自宅に居る時間が長くなっています。それに比 例してテレビ、パソコンやスマホに向かう時間も長くなっているかもしれません。私自身も そのような中の一人です。特定の情報を求めるためにネットを開くのではなく、ただネット サーフィンで時間を潰している時もあります。そこで、面白い話を見つけることもあります。 次に紹介するのはその一つです。

日本の伝統芸能に「謡(うたい)」というものがあります。「謡」は能楽(のうがく)のこと ばや台詞(せりふ)に当たる部分のことです。芸を極め、一流になるには素質が必要です。素 質がある、ないというのは一般的なこととして納得のいくところですが、「謡」の素質は 「声が悪い」ことと「音程が悪い」ことだと書いてあります。「良い」の間違いでは?「悪 い?」と頭の中に疑問符が浮かんできます。すると、続いて種明かしが書いてありました。

生まれつき声が良くて、音程のいい人は9割のところまで比較的早く到達するが、ただそこ からは上達せず、「9割の人」で終わる人が多い。それに引き換え、声や音程が悪い人はなか なか9割には届かないけれども、最初のうちは1割、2割とステップアップし、時間がかかっ ても歩みを止めず上達していく。9割になっても更に10割を超えて、その人独自の境地にたど

り着いていくのだそうです。「なるほど」とここで納得です。「本物は続く、続けば本物 になる」ということでしょうか。

瓊浦高校で学ぶ皆さんは一人一人が異なる原石です。自分には何の取り柄も素質もないと 思っているとすれば、ただひたすらに自分自身を磨けばいいのだと勇気をもらえる話だと思 いませんか。

将棋二冠と八段昇段の最年少記録を塗り替えた藤井聡太さんが、小学校1年生の頃将棋で 負け頬にバツ印を書かれて、一生懸命将棋盤を見る写真がネットに掲載されていました。彼 の「将棋の神様」へのお願いは、「一局お手合わせ願いたい」だそうです。才能があるなし にかかわらず、どこまでも、好きなことを追究する姿勢が本物に近づく秘訣のようです。

この2学期、原石の自分が何色に輝くのか、しっかり磨いてみませんか。

新型コロナウイルス感染症を理由とした差別や偏見などで つらい思いをしたら

児童生徒等の皆さんの不安や悩みを受け止める相談窓口は、下記の通りです。一人で苦 しまず、ぜひ利用してみて話をしてみてください。

·24時間子供SOSダイヤル <u>0120-0-78310</u>

https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1306988.htm

・子どもの人権110番 法務省 0120-007-110

http://www.moj.go.jp/JINKEN/jinken112.html

都道府県警察の少年相談窓口

https://www.npa.go.jp/bureau/safetylife/syonen/soudan.html

・いのちの電話の相談 0120-783-556

一般社団法人日本いのちの電話連盟

https://www.inochinodenwa.org/

・チャイルドライン(18歳までの子供が対象) <u>0120-99-7777</u>

https://childline.or.jp/

・新型コロナこころの健康相談電話 050-3628-5672

一般社団法人日本臨床心理士会、一般社団法人日本公認心理師協会

http://www.jsccp.jp/info/infonews/detail?no=730

《 主な行事・9 月 》

5日(土) 7日(月) ブロック別演技発表会

振替休日(ブロック別演 技発表会予備日) 8日(火) 進路面接講話(3年)

11日(金)15日(火)

19日(土) 対外模試(~20日)

連休学習会(~22日)

敬老の日

21日(月) 22日(火) 25日(金) 27日(日)

薬物講話(1、3年) 第1回進路模試(2年)

平和学習

8月9日(日)、戦後75回目の長崎原爆の日。瓊浦高校で平和学習が行われました。新型コロナウイルスの影響を受け、登校時間や集会の内容を例年から大きく変更したうえでの実施でした。

教室で平和教育のワークシートに取り組んだ後、学年別に会場を分け、 平和祈念式典のライブ中継を行いました。その後11時2分に黙祷し、平 和推進委員長の古本紗彩さん(普3D)が瓊浦高校平和宣言文を読み上げ ました。1年生会場では中野美玖さん(普1D)と伊藤杏莉さん(情1A)、 2年生会場では古川綾菜さん(普2A)が代読しました。平和集会と並行 して、瓊浦高等女学校の、原爆で亡くなられた方の慰霊式も行われました。 3年生の生徒5名が代表で参列し、献花、献水を行いました。

改めて、平和への思いを巡らせる良い機会になったと思います。ワークシートへの取り組み方も非常に良いものでした。身近なものから大切にし、それを輪のように広げることで、やがて平らかな和へと繋がる。その意識をもち、明るい瓊浦をこれからも発信していきます。



令和2年度 平和宣言文

今から75年前、1945年8月9日11時2分。

長崎に原子爆弾が投下され、私達が住むこの長崎の地は一瞬にして変わり果てた姿となりました。 この原爆により約7万5000人という大勢の人々の命が失われ、生き残った方々も、今なお戦争 の記憶や後遺症に苦しんでいます。

戦後しばらくして、非核三原則が打ち出されました。この悲惨な出来事を二度と繰り返すことのないよう、核兵器を持たず・つくらず・持ち込ませずという日本人の結束のもと、戦争を繰り返さない平和な世の中を守り続けることができています。

現在日本では戦争こそありませんが、日々痛ましい事故や事件が発生しています。そんな世の中で私達にできることは何か?自分の命はもちろん、一人一人の命を大切にし、日々生きていることに感謝することではないでしょうか。

日常の中で人と接する時、思いやりの心を持ったり、相手の立場や気持ちを考えたり…。そんなちょっとしたことを皆が意識すると、平和な世の中に繋がると私は考えます。

75年前に起きた悲惨な出来事を忘れずに、平和であることと命の尊さを次の世代へ伝えていけたらと思います。今、原爆で亡くなられた方々に心から哀悼の意を捧げます。私達は今後、核兵器 廃絶と世界平和実現のために努力していくことを誓い、これを瓊浦高校平和宣言とします。

令和2年 8月9日

平和推進委員長 古本 紗彩

祈念式典の司会を終えて

Q.司会お疲れ様でした。感想をお願いします。

今年の長崎原爆犠牲者慰霊平和祈念式典の司会を、本校 の演劇部の西山優哉君(普2C)と中原愛音さん(普2C) が務めました。その感想を話してもらいました。

西山:緊張してしまい、百点満点の出来ではなかったですが、無事に司会を務めることができ、今はホッとしています。リハーサルのときに、イントネーションが違うと何点が指摘されたので、直前まで何度も練習しました。

また、今回司会を務める上で様々な出会いがありました。特に印象深かったのが司会のリハーサルを終えた7日の午後、先生と中原さんと3人で原爆資料館に行ったときのことです。そこでたまたま出会った案内人の方から、「君たちは司会の子たちじゃなかね?」と声をかけられ、資料館内を丁寧に案内してもらい、原爆や戦争についての理解を深めることができました。

中原:緊張もありましたが今は司会を務められた嬉しさでいっぱいです。 というのも、3月まで演劇部の指導をしてくださった岩永先生がこれまで 平和や戦争、原爆といった舞台(劇)をたくさんされてきたのですが、私 も今回平和祈念式典の司会という形で、その想いを引き継ぐことができた からです。

今回の式典司会という大役を通じて学んだことは、やはり「練習の大切さ」「日常生活の重要性」でした。普段から練習で行っている発声や腹式呼吸は改めて大事なんだと認識できました。また、普段あまり新聞を読まないので、リハーサルの時はイントネーション等を指摘されることもありました。日頃から気をつけたいと思います

O.これからは何を頑張りますか?。

西山:10月に予定されている演劇の地区大会に向けて頑張ります。まだ大会があるかないかもわからないし、大会が行われるとしても厳しい制約がたくさんあると思うのですが、まずはできる準備を進めていきたいと思っています。

中原:今年の瓊浦演劇部は、初めて創作作品でコンクールに臨みます。タイトルは【生徒創作なんかできません。~2020年8月8日~】です。まだ台本が完成していないので、なんとも言えませんがきっと面白い作品になると思います。応援よろしくお願いします。





